


2 その他の学校の実践例（指導案等）

中学校 1年生 総合学習

白馬村立白馬中学校の実践

1 題材名 「神城断層地震を共に考える」

2 目標(ねらい) 2014年に起こった神城断層地震に対し、アーカイブを制作している学生の協力で、当時は、小さくて分からなかったことを教わり、地震発生から5年という節目を迎えた地震災害について考えることを通して、村民へのインタビューなど、興味のあるアーカイブコンテンツの制作を計画することができる。

	学習活動・内容	予想される生徒の反応	指導・助言
はじめ	1 神城断層地震の概要、被害状況を知る。	『白馬の奇跡』と呼ばれていたことは知っていたけれど、どんなことだったのだろう。 C:当時の神城地区の状況がわかってよかった。	T:5年前に起こった神城断層地震の詳しい話を勉強してきた大学院生から聞いてみよう。 参考資料 2014年城断層地震震災アーカイブ https://kamishiro.shinshu-bousai.jp/ (R2.10.8)
なか	2 興味があり、今、自分で調べてみたいことを発表する。	大学院生のお兄さん、お姉さんと一緒に中学生でもできそうな活動を考えよう。	T:大学院生が制作しているWeb上の神城断層地震震災のアーカイブに興味のある人は、いますか? T:どんなことに興味があるか?発表してみよう。
	3 調べてみたいことが同じ仲間とグループを作る。	みんなの興味	T:興味が同じ仲間とグループを作って集まってみよう。
か	「当時と今」を比べる班 インタビュー班 「ハザードマップ」を制作する班		C:地震の隆起により壊れてしまった道路と今の道路を画像で比べてみたい。 C:インタビュー班に入って、インタビューアールとして村人の話を聞いてみたい。
	4 次時の調査方法について考える。	C:移動は自転車にしよう。デジタルカメラも必要だね。	T:どんな調査や活動ができそうか。プリントにまとめてみよう。
まとめ	5 調査方法、必要なものを班ごとに発表する。	C:調査してみたいこと書き出してみました。	
	「当時と今」について調査する。当時の倒れた建物などの画像の選別、今の建物の撮影など	インタビュー班として、インタビュー依頼のチラシづくりやパワーポイント作成など	「ハザードマップ」について調査する。写真撮影、ホームページ調べ、パワーポイントの制作など
			 T:大学院のお兄さん、お姉さんの発表を真剣に聞くことができましたね。次時からは、興味をもったことについて調べていこう。

小谷村立小谷小学校の実践

【総合】小谷に生きる私たち ～大雪・大地震の時、どうやって避難する？～

令和元年度 小谷村立小谷小学校 5年

1. はじめに

小谷村は長野県の北部に位置する人口約3000人の山村である。かつては南小谷・中土・北小谷の3つの小学校があったが、過疎化による児童数減少に伴い、平成18年に3校を統合し、平成18年4月小谷小学校が誕生した。

令和元年度の児童数は116名で、すぐ近くに小谷中学校と小谷保育園も立地している環境をいかし、保小中一貫型教育の展開を目指している。3年生以上が取り組む総合的な学習の時間においては、地域素材(自然、郷土文化、地域人材等)を活用した実践が行われている。



小谷小学校の校庭。冬になると一面の雪景色となり、スキー学習で使用する。

2. 単元のねらい

課題を発見する力	地域災害に対する問題について気付き、自ら課題を設定することができる。
課題を追究する力	神城断層地震などの巨大地震が発生した場合の災害について基礎的な知識等を知り、自らの課題解決に活用するとともに、得られた結果を基に自らの命を守るための方法を考える。
コミュニケーション力	体験活動や人との関わりを通して情報を収集したり、友達と協力したりして取り組み、互いに意見を交流させながら災害について考えることができる。
情報を収集する力	課題に対して専門家・インターネット・聞き取り調査などの有効な方法を選択したり、組み合わせたりして調べ、災害の状況に応じて活用することができる。
情報を発信する力	地震災害に関する経験や知識を生かして自分たちにできる対処方法を考え、それを効果的に相手に伝えることができる。

○ SDGs(*①)との関連

学級では、日常的にSDGsと教科学習等を関連付けてきた。社会に出るための学校であるということ学級経営の軸に据え、SDGsを社会科や理科だけではなく道徳や国語等での教材と



関連付けたり(担任からの気付けや児童からの気付き)、教室内掲示物等でSDGsを身近な存在として捉えられたりできるようにした。

4月から継続してきたこともあり、12月の本単元開始時には、SDGs「目標11 住み続けられるまちづくり」(*②)との思考の関連付けはとてもスムーズであった。

*①SDGs

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

(引用:外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)

*②SDGs「目標11 住み続けられるまちづくり」

都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。

Make cities and human settlements inclusive, safe, resilient and sustainable

(引用:グローバル・コンパクト・ネットワークジャパン HP

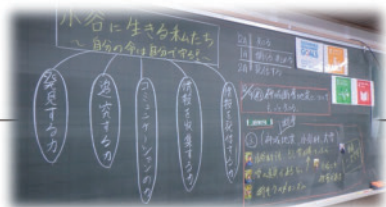
<http://www.ungcnj.org/sdgs/goals/goal11.html>)



3. 授業計画

8月 下旬	○初めの打ち合せ(小谷小学校)。	総合的な学習の時間として実施するうえでの、本校の学習過程を共通理解した。
11月 22日	○神城断層地震発生から5年目。防災を考える日として、神城断層地震を想定した、防災に関する児童集会や保育園との合同避難訓練を実施した。	<LINK> 令和元年度学校安全総合支援事業実践報告書(長野県教育委員会)
12月 月上旬	【2回目の打ち合わせ】 ○12月実施授業の打ち合せ(小谷小学校)。 (小谷小学校・信州大学廣内研究室)	半年前と比較し、児童のICTスキルが飛躍的に向上したことを報告。アプリケーション(Field On!)を積極的に使う学習展開にすることの共通理解した。
12月 2日	【オリエンテーション】 ○学習に入る前に、事前アンケートとして「神城断層地震について知っていること」をテーマに、ウェビングを実施。 ○今回の総合の授業における評価5観点について、児童へ具体的に説明した。 *ゲストティーチャー* 信州大学教育学部社会科学教育 廣内研究室	○ここで表出した児童の見方・考え方や知識・経験と単元最後のふりかえりを比較する。 ○児童たちから、学習を通してどういう成長をしたか聞き、授業者からはそれに基づいて身に付けてほしい力・成長してほしい姿を価値付けた。
12月 9日	【授業1回目】 ○神城断層地震(2014.11.22)について知る。 ○過去の地震について知る(長野県周辺で起こった過去の大地震)。 →大雪、地震と関連付けたふりかえりをすることで、学習問題へ動機付けの土台となる。 *ゲストティーチャー*	○東日本大震災翌日に発生した長野県北部地震(栄村2011.3.12)を事例として紹介し、大雪と地震を関連付ける。

第1回目の授業に入る前のオリエンテーションでは、学習の目的や今後の大まかな予定について確認した。




	信州大学教育学部社会科学教育 廣内研究室 *資料提供 大糸タイムス株式会社 Uさん(小谷村民)													
12月 17日	【授業2回目】 ○アーカイブを使って神城断層地震の被害等について理解を深めたり、アーカイブの使い方(タブレット上での操作)を覚えたりする。	1回目の授業では、提供していただいた資料とともに、自身の体験をふりかえり、学習問題の設定等を行った。共通の体験があるというのは、学習素材として非常に高いと感じた。												
冬休み	○地域の防災拠点を知る。 ※冬休みの宿題の一つ	○地域の避難所の特徴を調べ、リストアップする。												
1月 月上旬	○1月実施授業の打ち合せ(オンライン)。													
1月 15日	【授業3回目】 ①学習問題の設定 「もし、大雪の登校時に地震が起きたらどのように避難すれば良いのだろうか。」 ②-1 情報の収集(個人) →家庭からの聞き取り ②-2 情報の収集(登校グループ) →ICT機器を使ったハザードマップ作りを授業者から提案	○学習問題(解決する共通テーマ)に対して、地域の実情をよく知っている地元の子供たちの予想(考え)を尊重した。 ○事象提示(学習問題設定)の際には、大糸タイムス内川様より写真を提供していただいた。(実際の被災写真)												
<ハザードマップ作成担当エリア>														
	<table border="1"> <tr> <td>桐池</td> <td>白馬乗鞍</td> <td>学校</td> <td>下里瀬</td> <td>北小谷</td> <td>中土</td> </tr> <tr> <td>ゴンドラ駅周辺</td> <td>アルプスホテル周辺</td> <td>学校周辺</td> <td>ローソン周辺</td> <td>北小谷駅周辺</td> <td>中土駅周辺</td> </tr> </table>	桐池	白馬乗鞍	学校	下里瀬	北小谷	中土	ゴンドラ駅周辺	アルプスホテル周辺	学校周辺	ローソン周辺	北小谷駅周辺	中土駅周辺	
桐池	白馬乗鞍	学校	下里瀬	北小谷	中土									
ゴンドラ駅周辺	アルプスホテル周辺	学校周辺	ローソン周辺	北小谷駅周辺	中土駅周辺									
※エリア設定に関しては、児童の学区における人口が多い(避難所が開設されている地域)から選択した。														
1月	○校内でマップアプリ(Field On!)の操作練習。	○大雪、凍結などの視点をもたせる。												



16日	<p>*ゲストティーチャー*</p> <p>特定非営利活動法人 DoChubu 落合鋭充 さん</p> <p>① 教室から避難経路を通過して避難場所まで撮影しながら移動</p> <p>② 教室でデータのシェア</p> <p>③ ふりかえり</p>	<p>(他校作成のハザードマップとの大きな違い)</p> <p>→撮影場所で写真にコメントを入れる。</p>
1月 22日	<p>○ハザードマップ作り。</p> <p>→アプリ「フィールドオン」を使って、各エリアでのハザードマップを作る。</p> <p>【午前】撮影・修正・追加【午後】発表・講評</p> <p>*ゲストティーチャー*</p> <p>信州大学教育学部社会科学教育 廣内大助 教授</p>	<p>○各エリアに別れ(児童数名+大人)、視点に基づいたデジタルハザードマップ作りに取り組んだ。</p>



実際のハザードマップ作りでは、小谷村内各箇所を撮影や記録を行った。普段、生活しているエリアであるが、発見や気づきが多く、写真と共にその場で記録し、クラウドにアップロード。教室に戻るころには、共有化できるように地図に表示されている仕組み。アプリ「フィールドオン」

1月 27日	<p>○前時までの復習(写真や映像)。</p> <p>→ハザードマップ作りを通して気づいたこと、感じたことをシェア。</p> <p>○「発表する」具体的な内容の提示。</p> <p>【条件①】最高学年としての立場</p> <p>【条件②】大地震に伴う避難は明日発生の可能性もある</p> <p>【条件③】大人に聞いてもらう</p> <p>*課題設定</p> <p>・何のために(目的) ・何を(題材) ・どのように(方法)</p> <p>○思考ツールを使って情報整理・分析。</p> <p>【発表条件】</p> <p>模造紙2枚分以上、タブレット使用OK、10分間(発表・質疑応答)</p> <p>*参考(中1国語科ポスターセッション)</p>	<p>○発表目的</p> <p>→今後も災害に強い小谷村にしたいため。</p> <p>○データ保存</p> <p>→年度更新ではなく、データは蓄積されていくことでビッグデータになる。</p> <p>*目的と目標の違いを学級全体で、何のための学習発表の場なのか再確認。</p>
2月 上旬	<p>○製作</p> <p>国語科での文章作成・プレゼンテーション、理科・保健でのハザードマップ作り等と関連付けて、教科横断的に取り組んだ。</p>	 <p>空週の授業では、クラウド上のデータベースの記録をもとにして、情報の整理を行った。制作活動に入る。(思考ツールの応用場面として設定)</p>
2月 17日	<p>○リハーサル</p>	<p>○1週間前に本番と同条件のリハーサルを行うことで、事前修正・追加をかけやすくなる。</p>



2月 25日	<p>○5・6年生合同学習発表会にて、ポスターセッション。 →全校児童・教職員、保護者、地域の方などを招待し実施。</p> 	<p>○約 60 分間かけて、ワークショップ型で実施。 ○国語科「提案型文章の作成」と関連付けることで、発信する内容が構造的・論理的になる。</p> <p>○3つの提案内容 *技術革新によって、アプリケーションなどによるハザードマップ利用の推進。 *災害時の時にすぐに動けるように、地域での複数回にわたる防災訓練の実施。 *地域の人や教育機関等と一緒に防災を考える学習会の推進。</p>
2月 下旬	<p>○学習全体のふりかえり。 →総合ノートや映像等を使いながら、これまでの学習成果・結果をふりかえり、学習者として身に付いたことやもっと追究してみたいことなどを言語化した。 ※信大院生はZOOMで授業見学</p>	<p>○12月2日に記述したウェビングとの比較をすることで、自分の学びの成長を実感する。</p> 
3月	<p>○次年度への引継ぎ。 ①次年度第5学年担当予定の教諭へデータ等の引継ぎ ②信州大学廣内研究室とのミーティング、方向性の確認。</p>	

2020年2月25日
大系タイムス「白馬・小谷ニュース」

4. 外部人材の活用

□信州大学教育学部社会科学教育 教授 廣内大助氏・大学院生 数名
□特定非営利活動法人ドゥチュブ(DoChubu) マップサービス 落合鋭充氏
□小谷小学校 5年生保護者 数名

5. メディア掲載

2019年12月15日	大系タイムス「自然災害の教訓 児童に 小谷小 信大が協力し防災学習」
2020年1月22日	NHK 長野「小谷小の取り組み」
2020年1月23日	信濃毎日新聞「小谷小の取り組み」
2020年2月25日	大系タイムス「防災と観光にアイデア」



2019年12月15日
大系タイムス「白馬・小谷ニュース」



2020年1月23日
信濃毎日新聞一面

6. 成果

◎データベースで残せる	集めたデータやコメントなどを毎年積み重ねていくことで(レイヤリング)、ビッグデータとなる。紙ベースのハザードマップだと、該当年度のみマップとなってしまう、年度更新やデータの積み重ねがしにくい。学校外で取得した画像データ等をクラウド上に蓄積することで、データの出し入れが非常にスムーズであり、午前中に調査をし、午後にデータ分析等という思考を止めない流れを作ることができた。
◎PBL(Problem Based Learning)型授業の実践	理科や社会科で身に着けてきた問題解決型の学習過程を応用することができた。より身近な問題である「大雪の登校時×大地震」というテーマは自分ごとの問題意識をもちやすく、人口減少問

	題とも関連性が高いことやSDGs11「住み続けられるまちづくり」との親和性も高い。教科学習で身に付けた学力を総合で実践することができた。
◎見えてくる世界の変容	マップ作りを通して、児童が生活するエリアにおける緊急避難できる場所や危険ポイントがより明確化になった。また、防災に関する知識を蓄えることで、自分たちの生活をふりかえる機会ともなった。 例)ガードレールに切れ目があるのは危ないけれど、除雪には必要だ。 例)避難する際に、小谷保育園では防災頭巾をかぶるのに、小学校では紅白帽子なのはなぜ？ 例)雪崩から避難するには、この広い場所(田んぼ)はいいな。でも、足元には気を付けないと。

7. 課題

▼各教科活動との関連性・年間指導計画の見直し	今回は新規授業として計画したこともあり、各教科との連携は授業計画段階では見直しをもてていなかった。しかし、2学期からは授業自体の見直しをもてたことで、算数(統計処理)・国語(表現)・理科(自然災害・治水対策ハザードマップの作成)・社会科(情報・防災)・道徳科(節度、節制)などとの連動することができ、時数の確保等にもつながった。
▼発信	予定では学び校の外での発表することで、児童の意欲向上や小谷村全体へのアピールにもつながると考えていた。今回は校内の学習発表会という形で終わってしまったが、校内外ICT化がさらに進む令和2年度以降では、ZOOM等のオンラインでの発信というも考えられる。
▼校内での引継ぎ	一過性の学習単元にならないようにするためには、学校と連携団体・事業者との密な連絡が必須である。授業した担任がいないと実現しないタイプの授業ではなく、誰でも実施できるレベルにしなければいけない。教科書等のない総合においては、指導計画を確実に引き継ぐことや年度初めに外部指導者との打ち合わせ。さらには、授業全体を調整するコーディネーターの整備が急務である。

8. 最後に

私は平成30年度まで東京都の小学校教員として勤務していた。(日野市8年間、小笠原村5年間)令和元年度(平成31年度)からは縁あって小谷小学校での勤務となった。東京都で実践してきたPBL型学習の優れた部分、そして小谷小学校の優れたICT環境。さらには、小谷村という自然豊かな地域、児童の神城断層地震の経験。そして、信州大学廣内研究室の手厚いサポートという複合要素が重なり合って、今回の実践となった。

実践をするにあたり、様々な課題も露呈したが、それよりも子供たちの学びの深まりが見えた学習であったことはまちがいない。ある児童は、TVの取材時に「ハザードマップのことを日本中に広めたい」と発言した。今回の学習を通して、感じたことを端的に表した言葉だなと私は感じた。

神城断層地震に限らず、長野県内、日本全国で大地震に対する備えが進んでいるのは周知の事実ではあるが、天災は忘れたころにやってくるという言葉を大事にして、さらなる実践に取り組み、持続可能な街づくりに貢献できる人材育成をこれからも学校現場から行っていく。

(文責 5年担任 清水 智)



実際のアプリ画面の一部。集められたデータはオンラインマップ上に表示される仕組み。動作が軽いので、ポイントの拡大・縮小、コメントの表示が素早く行えるなど、授業にリズム感が生まれる。

防災学習計画案

- 1 授業日時：令和元年 10 月 17 日（木）1・2 校時
- 2 学 級：3 年 A 組、3 年 B 組
- 3 授業者：（3 年 A 組担任）、（3 年 B 組担任）、（TT 担当教諭）
- 4 題材名：自分の命を守るために（防災）

5 題材に寄せて：

加茂小学校の通学範囲は、茂菅、裾花台から往生地、妻科と広範囲である。周囲の地形は、凝灰岩質の山々で囲まれ、校歌にも謡われている旭山付近には、土砂が崩落し山肌が露出している場所がいくつも見られる。子どもたちは、見慣れた景色としてとらえ、毎日通学している。

長野市の防災マップを見ると、加茂小学校地区の、多くの児童の住宅が、土砂災害警戒区域または、土砂災害特別警戒区域に入っていたり、地滑り危険箇所に入っていたりしている。有事の際には、身の安全に気をつけなければならない地域で生活していることがわかる。近年、日本各地で大規模な災害が発生している。痛ましい話が聞かれるが、それは決して他人事ではない。南海トラフ地震が数十年以内に発生するというとも言われている現在、いざというときに自分の家族など、大切な人、自分自身をどう守ればいいのか、題材「自分の命を守るために」に入り、自分事として考えさせたい。

そこで、近年に発生した3つの大地震について知ることから始める。そして、これから発生が予想される南海トラフ地震の存在について学ぶ中で、地震による被災が自分事としてとらえられるようにしたい。その上で、日ごろ行っている避難訓練と結びつけながら、地震発生時の具体的な行動を考え、イメージを持ちやすくしたい。それをもとに地域の各所にある避難所の存在を知ることへつなげ、「どうやってそこまで移動するか」考える子どもたちに対し「避難所へ行くときの『安全なルート』とはどんな道か？」という問いを立てる。そして、街へ出て、周囲の状況をとらえる中で、より安全なルートがどのような道か、思考し判断できる力を養っていく。

6 具体的な授業日程：

- ① 9月 4日（水）過去に起きた地震について知る。
- ② 9月 5日（木）これから起きる地震について知る。
- ③ 9月 9日（月）地震が起きたらどうするか、具体的な行動について考える。
- ④ 9月 12日（木）地震が起きたらどうするか、避難所の存在を知り、どうやって安全に避難するか考える。
- ⑤ 9月 19日（木）安全なルートを通って避難所へ行く時の「安全なルート」ってどんな道か（テーマ設定）
- ⑥ 9月 27日（金）チーム決め
- ⑦ 10月 2日（水）iPad 練習（校内）※2時間
- ⑧ 10月 3日（木）危険度設定
- ⑨ 10月 9日（木）iPad 練習（校外）西長野 予備日 11日（金）※2時間
- ⑩ 10月 17日（木）チームごとフィールドワーク（公開） ※予備日：18日（金） ※2時間
- ⑪ 10月 18日（金）まとめ

※1h：8：45～	2h：9：35～	6h：14：45～
-----------	----------	-----------

7 本時案：

(1) 主眼

「大地震発生時にも安全に通れる道ってどんな道なのか」という問題意識を持った子どもたちが、チームごと設定した複数の避難ルートを実際に歩いてみる場面で、地震発生時に危険と思われる施設や設備を見つけ、危険度レベルを判定しながら撮影して持ち帰り、互いの撮影した画像を見合うことを通して、地域にある危険個所に気づくとともに、それらに共通する要素をまとめることができる。

(2) 本時の位置：全 14 時間中の第 12・13 時

前時：iPad の使い方を練習する。

次時：学んだことをもとに、地震発生時から避難所へ到達するまでの具体的行動を文章にまとめる。

(3) 指導上の留意点

- ① ボランティアの方との事前打ち合わせで歩行中の留意点を確認し、安全に行動できるようにする。
- ② 記録媒体 (iPad) の扱いについて事前指導をし、適切に使用できるようにする。
- ③ 児童の主体性を支援しつつ、安全面やプライバシーの観点から撮影上のアドバイスをを行う。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	支援 (○)・評価 (□)	時
導入	1 学習問題を確認する		・ iPad ・ ルートマップ (各チーム 1 台) ○ 学習問題を想起しつつ、各チームの歩行ルートについてスタート・ゴール・経路をマップで確かめさせる。 ○ 一人ずつ担当チームの前に立ってもらい、「お願いします」の挨拶をする。また、注意点を確認する。 ○ フィールドワークの具体的な目標について、対話しつつ確認する。	5
	【学習問題】 安全なルートってどんな道か、考えよう	○ 本日の歩行ルートの確認 ・ ルートを歩きながら一番安全な道を確認させてこよう ○ 一緒に回ってくれる大学生や地域の方へ挨拶をする。 ・ 安全に気をつけて行ってこよう ・ 周りをよく見て歩いてこよう		
展開	3 フィールドワーク	○ ルートを歩き、話し合いながら、記録画像を撮影する ・ あの壁は崩れやすそうだから危険 ・ 自動販売機は固定してあって安全	○ 担当チームの引率 ○ 非常時に備え職員間で連絡が取れるようにする。 ○ 子供の判断を尊重しつつ、認める声がけをする。	60
終末	4 情報交流	○ 撮影してきたものについて危険レベルと、判断の根拠を述べる	○ 発表の話型を提示する。	15
	5 まとめ	○ 発表から、それぞれの判断の根拠の共通点を確認する。		

題材名 「私たちの大切なもの守り隊」

1. 学習の概要

昨年度より、信州大学教育学部の協力を得て I C T 機器 (iPad) と G I S (地理情報システム) を活用した防災に関する学習を行っている。昨年度のクラスの活動では、地震、洪水といった災害に伴い発生する被害が、西長野地区のどこで起こりそうか、実際にその現場へ行き、子どもの目線で情報を集め、G I S 上で共有化を図る活動を行い、クラス全体で「災害」という視点から町の様子をとらえることができた。

今年度は、「地震が発生した時の災害」と、災害を地震に限定した。そして、集められた情報を、予想される被害の程度で「被害レベル 1～3」の 3 段階で自己評価する学習を取り入れた。それにより、災害の起こりやすさに加え、被害レベルを自己判断することにより、一人一人の思考力・判断力を更に育成することをねらった。被害レベルを判断するにあたっては、「家から避難所である加茂小学校まで、安全に避難できる道を探す」というテーマを設定し、目的意識を持った学習活動を仕組んだ。このことにより、子どもたちは、判断をする必要感が高まり、切実感をもって一つ一つの様子を見ることができたと思う。

結論として「100 パーセント安全な経路というのはない」ということを全体として導き出した。日ごろから「どこなら被害が少ないか」考える必要性とともに、いざ災害が発生した時には、状況に応じ、臨機応変な対応が求められるだろうことも、子どもたちなりに感じることもできた。

今後の課題としては「もし地震が発生したのが夜だったらどうなったか」「もし大雨の日に地震が発生していたら」と、地震発生に時間や気象条件といった別の要素を入れることによる思考判断をさせることも必要ではないかと考えた。そして、その時に応じた日ごろの備え、という部分についても考えさせていくとより活動が広がっていくのではないかと考えた。また、子どもが撮影してきた写真は、撮り方によっては友達に共有されにくい場合もあるので、写真の撮り方を工夫したり、グーグルマップも同時に活用し、撮影してきた周辺の様子についてより詳しく情報共有する必要もあると感じた。

さらに、自分たちの学んできたことを、自分の保護者などへ発信する機会を設けてもよいのではないかと思った。

2. 単元展開の概要

	学習問題学習活動	子どもの動き	備考
1	国語 ○ローマ字入力で文章を入力しよう。	・ローマ字入力ができるようになったよ。 タブレットを使っても文章が打てそうだね。	1 学期に取り組み、夏休みの課題としてローマ字スキルを活用。2 学期開けすぐにもう一度行う。
2	社会 9 月 1 日	○防災の日がなぜ 9 月 1 日なのか確認。	各種写真資料を見なが

<p>3</p>	<p>○防災学習は何のために 行うんだろう</p> <p>社会</p> <p>○私たちの身の回りで災 害は起こるのかな？</p>	<p>関東大震災の時の写真などから被害の甚 大さをとらえるとともに、生き残った人の 大切な人・ものを失った悲しみについても 触れ、防災学習の目的を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今東京はとても立派な街だけど、昔、大 きな地震があつてたくさんの建物が壊れ たり人が亡くなつたりしたんだね。 ・1923年9月1日に起きた関東大震災の 被害を忘れない意味で制定されたんだね。 ・最近も大きな地震があつたり洪水が起 きたりして、私たちにも関係がある ね。 ・災害はいろいろあるけれど、地震が怖い のは、ほとんど予測ができないことだよ。 ・地震の後、生き残った人はとってもかわ いそうだね。 ・防災学習は、ぼくたちもいざというとき に自分の大切な人やモノが守れるように 学習するんだね。 <p>※私たちの周りは安全なのかな？</p> <p>○長野で地震が発生する確率は何パーセ ントなのか予想してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震が今後30年以内に70 パーセント以上の確率で起きるといわれ ているんだね。 ・僕たちの住む西長野には、断層というの があつて、地震が起こる場所なんだ。 ・大きな地震は他人事じゃないんだ。 ・私の家は地震が起きたらどうなるのか な ・防災マップを見ると、家が土砂で埋まる ってなってるよ。 ・自分の家にはいられない。どこへ行つた らいいんだろう。 ・避難所の看板学校にもあつた気がする。 見てみよう。 ・防災倉庫もあつたね。中には何があるん だろう。 ・防災倉庫には、水や食料やトイレなんか 	<p>ら、地震の様子をとらえ ていく。</p> <p>○地震の発生確率を予想 させ、次に、研究調査で 言われている確率を伝え る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野西縁断層帯の図 ・防災マップ個別配布 と、拡大図を黒板に張る ・マップの見方を説明 し、気づいたことを出さ せる。 ・避難所を示す看板の 図。 ・校庭へ看板を見に行 く。 ・防災倉庫に何があるか
----------	--	--	---

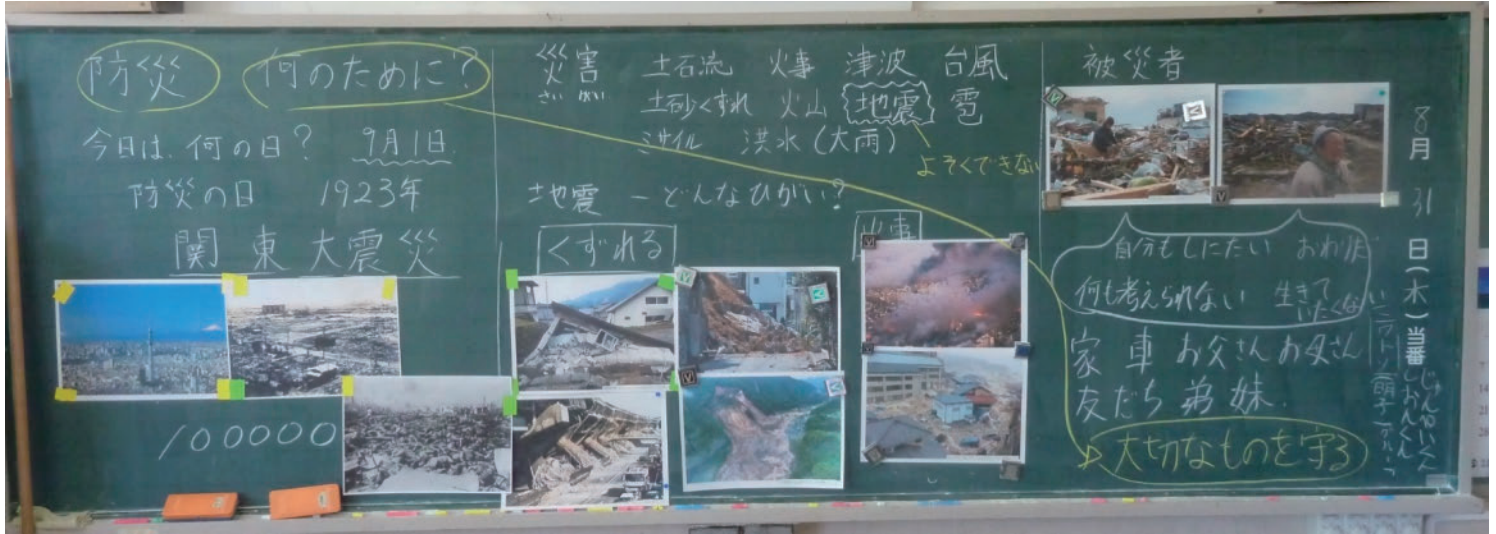
		<p>もあるんだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所（学校）に来ることができれば、何とかなるんだね。 ・災害が起きた時に、どこの道を通れば学校へ来られるかな。 	<p>実際に見る。</p>
4	<p>社会</p> <p>○本当に安全な道はどこだろう</p>	<p>○スタート「自分の家」、ゴール「避難所（学校）」として、どのみちなら安全か考えながら、実際に歩いてみる活動へつなげていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも歩いている通学路は安全かな。 ・安全だから通学路なんですよ。 ・通学路は、交通安全がポイントだから、災害の時も安全とは限らない。 ・安全な道は、広い道。狭い道は危険だよ。 ・崩れやすいがある道は危険。 ・いつもの通学路はどうだったけ？確かめてみたいなあ。 ・実際に歩いて、安全なのか危険なのか確かめてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の初めに、「何のための学習なのか」について必ず確認する。
5	<p>総合</p>		
6	<p>○タブレット端末に慣れよう</p>	<p>○基本的な使い方に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンだから、ホコリ・衝撃は故障のもと。 ・使うときは必ず首から下げる。 ・学校のものなので大切に扱う。 	<p>○撮る・保存する・削除するなどの基本的な手順に習熟させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一通り説明した後、加茂神社へ行き、撮影。その後学校で確認をする。
6	<p>社会（3・4校時）</p>		
7	<p>○地域の危険な場所を確かめに行ってみよう。校外学習①</p>	<p>○自分の住む地域を中心にグループごと写真をとりに行き、コメントをつけ持ち帰る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここは急な坂道で危ないね。 ・この石垣は地震があったら道をふさいでしまうかもしれない。 ・この建物は古いから崩れてくるかもしれない。 ・この道は危険度レベル2だと思います。 	<p>○安全に観察記録ができるように、保護者やチューターボランティアを募る。</p> <p>○地図を渡し、自分たちがどの場所にいるのか、常に意識させる。</p> <p>帰ってきたら、1つか2つの班に発表させる。</p> <p>自分たちの主観でいいの</p>

<p>8</p>	<p>社会 ○調べてきたことをまとめよう</p>	<p>○写真を確認し、危険度レベルとその根拠を公表し、最後に、レベルの判断基準をまとめていく。 安全・・・頑丈、新しい、ひび割れない →災害時に通れる 危険1・・・小さな被害、崩れるけれど、通ることはできそう。 危険2・・・古い家、大きな木、重そうなもの。通れるか分からない。無理すれば通れるかもしれない。 危険3・・・山、石垣、川。絶対に通れない。近づくこともダメ。 ・みんなで考えた危険度レベルで考えてみて、学校まで避難できる道について探しに行ってみよう。</p>	<p>で、危険度レベル1～3の判定をつけさせ、根拠を述べさせる。 ○各班の班長を中心として、班員の意見をまとめてコメントするように促す。 ○全員の家から避難できるか考えることは物理的に難しいため、誰か代表者の家をスタート地点として、どの道なら安全に避難できるか調べてみる課題を提案する。 班のはずだけ経路を選んでおき、どの班がどの道を通るか分担を決める。</p>
<p>9 10</p>	<p>社会（3・4校時） ○いざというとき、安全に避難できる道があるか確かめに行こう。校外学習②</p>	<p>○1回目の観察の経験と、自分たちで考えた危険度レベル判定尺度を基に、万が一の時、危険な場所、危険なことがあったら写真を撮ったりコメントを書いたりする。 ・このブロック塀は崩れやすそうだけど、その上を乗り越えて通れそうだからレベル2にしよう。 ・この建物が倒れやすそうで、きっと道を完全にふさいでしまいそうだからレベル3だね。</p>	<p>○1回目と同様、保護者やチューターボランティアを募る。 ・出かける前に、それぞれの通る道を地図で確認しておく。 ・引率者との顔合わせ、注意点の確認をする。 ・出発点まで全員で移動する。そこで、再び大まかな確認をしてスタート。 ・早く学校へ戻ってきた班から、撮ってきた写真のコメントを加除修正。 ・揃ったところで、1つのグループの写真発表。 ・感想発表</p>

11	社会 ○調べてきたことを発表しよう	○前時に撮ってきた各班の写真と危険度レベルについての発表を聞き合う。	iPad、アップルTV
12	社会 ○調べてきたことをまとめよう	○2班で一緒になり、相手の班の撮ってきた写真を見ながら、危険度レベルの付け方について情報交換しながら、危険度レベル判定基準について見つめなおす。 ・1班の人たちは、この建物を危険度1と言っているけれど、私たちは危険度2だと思うよ。どうしてかというところ……。 ・○○さんの言う通りかもしれないね。危険度のレベルを変更しよう。	撮影してきた写真を印刷して用意
13	社会 調べてきたことをまとめよう	○最終的に決めた危険度レベルを書き込みながら、自分たちの撮ってきた写真を白地図に貼る	
14	社会 安全な道がどこかについて結論をまとめよう。	○友達の家から学校まで、安全な道がどこであるかみんなで決めだす話し合いをしながら、「100%安全と言い切れる道などない」ということを最終結論と確認し、いざというときの行動について考えをまとめる。 ・どこの道にも危険な場所があるんだね。 ・いくら話し合ってみても、絶対安全な道はなかったね。 ・大切なものを守るためには、いろいろなことをもっと考える必要があるね。	撮影してきた写真 白地図 話し合いの結果を踏まえ、自分たちの調査結果について、班で一枚模造紙に新聞形式でまとめた(後日)

- ・ローマ字の学習に当たっては、「ローマ字スキル」という副教材を用いた。
- ・パソコンを使った文字入力の練習については、授業以外に、休み時間にパソコン室へ出かけていき、練習ソフトを使って自由に練習してよいこととしていた。

3. 学習の実際 (写真から)



第2時板書

第3時 私たちの身の回りで災害は起こるのかな?



防災マップで自分の家がどのあたりにあるか確認 (左上)

避難場所を示す看板を見に行く (右上)

防災倉庫を開け、中にあるものを確かめながら、気づいたことを発表する (左下)

これらを通して、自分の住む家の建つ場所が安全ではないということ、いつも学んでいる学校が、状況によっては避難場所になることなどを確認し、地域についてこれまでとは異なる見方でとらえる意識を持つことができた。

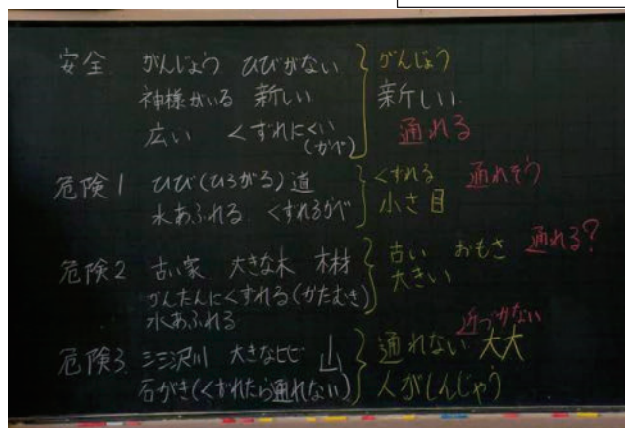
第6・7時 地域の危険な場所を確かめに行ってみよう。校外学習①



学生チューターについてもらい、1回目の野外活動へ行った。自分の家の近くへ行くことで、今までと異なる視点から、地域のことをとらえることができた。このとき、自分たちで危険度レベルを判定してくる課題を同時に出していた。全くの主観による判断であるが、この自分なりの判断を、後日、友達との判断とすり合わせを行っていくことで、各レベルの判定基準が共有化されることになった。人が下した判断ではなく、自分自身のものの見方も入れながら基準を考えることは、一人一人の思考力を発揮させることにつながったのではないかと考える。



危険度レベル↓



第3章

第12時危険度レベルについて話し合い



第13時 危険度レベルを入れた写真を白地図へまとめる

危険度レベルについて、2つのグループで話し合いをしている最中、ある男子が「先生、この話し合いは意味がないよ。だって、どれだけ話し合ってもみんなの意見が一致しないし、安全な道なんて、結局どこにもないじゃん。」と大きな声で言った。本単元でねらっていた発言がだされた瞬間だった。この児童は防災の重要な判断を言っていたが、本人としては「この学習は意味がない」という意味で発言をしていた。最終的には、教師の方でまとめの話をする場面を入れることとなった。

長野市立清野小学校の実践

平成 31（令和元）年度 4 学年

『洪水が起きたときの行動を考えよう』（総合的な学習の時間）

地域概観

長野市立清野小学校は、長野市南部の松代町内にあり、千曲川の右岸に位置する。学校及び学区のほぼ全体は、令和元年改訂の長野市洪水ハザードマップで5～10mの浸水予測が出されている。また、地域の南側には山が連なっているため、土砂災害警戒地域になっているところもある。この地域は水害常襲地域でもあり、過去には江戸時代の『戊の満水』（1742年）や昭和57年の台風18号災害で浸水被害を受けている。なお、戊の満水の際には、学区東端のやや小高くなった部分の上にある離山神社の境内に多くの人が避難したとの記録がある。

学区内は、学校西側で千曲川堤防沿いに位置する1区（松代町岩野地区）、学校の南東で南側に山が連なる2区、学校東側で大部分は平地部の3区（ともに松代町清野地区）の3地区に分かれている。

学習のはじまり

今回の学習は、千曲川の洪水を想定した水害防災学習である。自分たちの住む地域がハザードマップで赤く塗られ、浸水想定区域となっていることを知った子どもたちが、周囲よりも高く安全な場所はどこなのか考えるところから始まった。

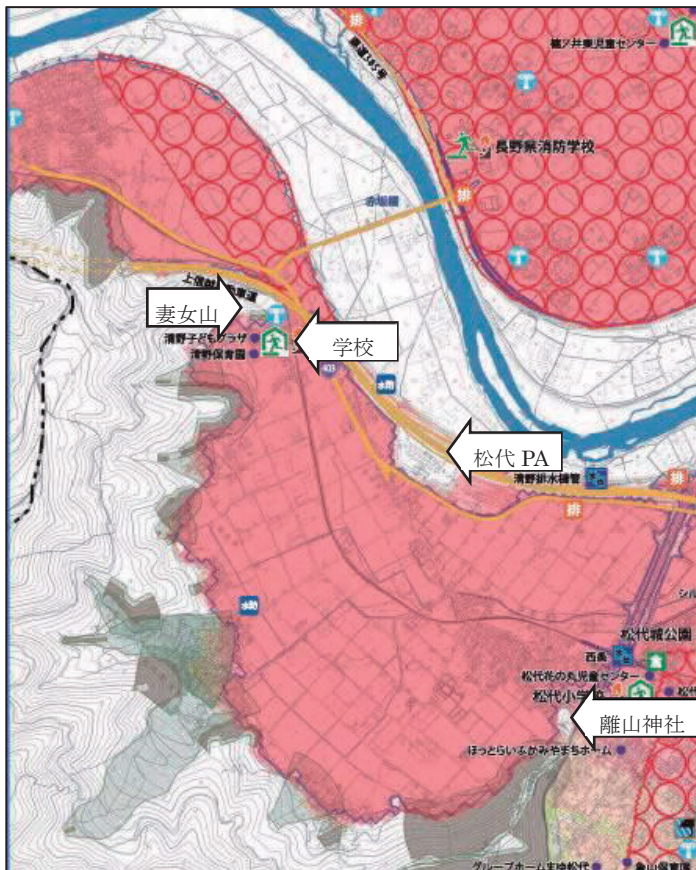
学習のねらい

千曲川で洪水が起こったときの危険性を知り、どこに避難すればよいのか危機感を抱いた子どもたちが、地域内の危険な箇所や安全な箇所を自分たちで歩き回りながら調べることを通して、有事の際にどのような行動をすればよいのか考えることができるようになる。

学習の展開

<1学期>

子どもたちは社会科の学習との関連で長野市のハザードマップ（改訂前）を見た。その際、清野小学校周辺も0.5m未満ではあるが、浸水想定地域となっていることを知った。



↑ハザードマップで見た清野小学校区



↑改訂前のハザードマップ

<8月>

担任が子どもたちに長野市のハザードマップが改訂されたことを伝え、見せた。新たなハザードマップでは、学校周辺だけでなく学区内のほぼ全域が真っ赤になっていた。子どもたちからは「やばい。」という声が上がった。

<9月>

過去の洪水発生時のニュース映像や国土交通省公開の動画資料『洪水から身を守るには ～命を守るための3つのポイント～』を利用して、洪水発生時の状況や発生時の身の守り方などを学んだ。

<10月>

初旬、ハザードマップを改めて確認し、万が一の場合にどのような行動をとればいいのか考え始めた。「学校の3階なら…」という考えも出されたため、ベランダから巻き尺を垂らして高さを計測してみた。およそ8mであることが分かり、想定される10m超の浸水が発生した場合に学校に残っているのは危険であること知った。すると、子どもたちからは学校のすぐ西にある妻女山に避難すればよいという声が上がった。中には、「外に水が来ていなければ…」と状況によって判断が変わることを踏まえた意見も出された。また、自宅にいた場合はどうするか、子どもたちに個々の考えを聞くと、自宅近くの山や神社、松代パーキングエリアといった場所が答えとして挙げられた。

10日、地区ごとに分かれ、自宅にいた場合の行動を考えた。2区の子どもたちは自宅裏の高い所、3区の子どもたちは離山神社や松代PAと、避難可能だと思われる場所を挙げていった。しかし、1区の子どもたちは妻女山や自宅近くの山などが出されるものの、車でなければ行くことは厳しかったり土砂崩れの心配があったりするなど、意見はまとまらなかった。そんな中、ある児童は「(逃げられる場所がない)」と不安げな表情でつぶやいた。

12日、台風19号が上陸。千曲川も上流部で大雨が降ったことにより増水。本校でも多くの子どもたちが親戚宅や指定避難場所へ避難した。幸いにも清野小学校区では大きな被害はなかったが、後日寄せられた保護者の話により、大人よりも先に子どもが「逃げよう。」「物を2階へ。」などと言いだした家庭があったことが分かった。

<11月>

右記4名の協力を得て、タブレット端末とそこにインストールされた防災教育用アプリ(『フィールドオン』)を利用したフィールドワークに取り組み始めた。

14日、初めてのフィールドワークを実施。タブレット端末を2～3人ごとに1台持ち、クラス全体で避難場所として候補に挙がっている離山神社(3区)方面へ向かった。途中、子どもたちは道中に潜む危険箇所や、万が一の際に自分たちの安全につながるかもしれない箇所を見つけ、アプリを利用して写真に収めたりコメントを残したりした。また、離山神社では上から見下ろすことやアプリに表示される標高を見ることで、避難に有効な高さがありそうなことを確認することができた。

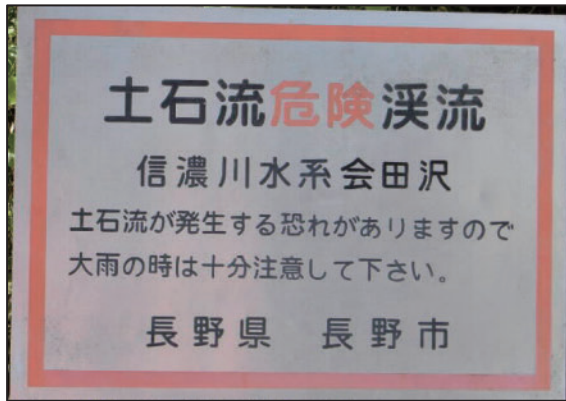
〈防災学習協力者の皆様〉

- ・廣内先生…信州大学教育学部教授
- ・落合さん…NPO法人 DoChubu (アプリ関係)
- ・倉澤さん…信州大学教育学部附属次世代型
学び研究開発センター (機器設定等)
- ・小林さん…信州大学教育学部学生 (授業支援)



↑子どもが撮った写真とコメント

15日、2度目のフィールドワークとして、2区方面へ向かった。水が流れることを意識して水路に目を向ける子どもが多い中、浸水により見えなくなった時の状況を考えて写真に撮る子どもも出始めた。また、土石流に関する警告板を見つけ、土砂災害も合わせて考えるようになった。



↑下から見た離山神社

21日、これまでに撮った写真やそこにつけたコメント、自分が危険（安全）だと思った理由を公表し合った。あるグループの発表では「見えなくなったら…」という言葉がつけられた。それにより、浸水により見えなくなることで生じる危険（水路や段差、マンホールなど）がフィールドワークの視点として新たに加わった。

28日、地区ごとに分かれてフィールドワークを行った。1区の子どもたちは危険な個所として、側溝の蓋が外れそうな場所、堤防へ続く道路（あふれたときに水の流れ道になるかもしれない）、歩道わきの段差などを記録した。また、妻女山へと上がっていく道では、タブレットでの位置情報をもとに、高速道路と同じくらいの高さのところまで上がるとハザードマップの想定浸水域から外れることに気付いた。2区の子どもたちは前回のフィールドワークでは行かなかった地区内にある池へ行った。一人の子どもが、台風の際に池の水が増水してあふれそうになっているのを見たからだそうだ。3区の子どもたちは離山神社へ行き、改めて高さを確認したり道路と周辺にある田畑との段差を確認したりした。

<12月>

4日、最後のフィールドワークとして、クラス全員で松代PAへ行った。一般道から敷地へ入ると、上り線側が高くなっていることが視界に入った。上り線と下り線のPAが並んでいるので、高さの違いも一目瞭然だった。下り線側から上り線側に上がって見た子どもたちは、その高さや広さを実感することができた。



↑離山神社周辺での写真とコメント



↑松代PAでの写真とコメント

松代PAで、低いところは浸水する心配があるけれども、階段を上った上り線のPAは浸水する心配がないということが分かりました。松代PAの階段を上った先はとても広くて、もし浸水しても、たくさんの人が避難できそうだなと思いました。また、下り線のPAは浸水の心配があったので、上に上がる前に浸水していたら危険だなと思いました。道路からPAの裏に入る入り口には水路があって、人が歩いてくるときは危険だなと思いました。そして、いろいろな所に段差があったので、見えなくなつてつまづいて転んだり、深い段差で落ちてしまったりしたら危ないなと思いました。でも、ベンチや机などあって、お年寄りの人などが座ることができるので、その部分はいいなと思いました。

今日、総合で防災をやりました。今日は、松代PAに行きました。ぼくは、家からどれくらいで行けるかを考えました。『ぼくの家から松代PAは少し遠くて、時間がかかるかな。』と思いました。ぼくは、家族で会議をして災害の時にどこに避難するか話し合おうと思いました。

フィールドワークを終え、子どもたちはWeb上で防災マップの修正を行った。2月に行う学習発表会を意識し、GPSによる位置情報のずれや写真に対するコメントをグループで相談し合いながら、より分かりやすく直した。また、発表内容を考える場面では、台風災害での事実を織り交ぜて発表しようと図書館やインターネットを活用して情報収集をしたり、伝えたい内容にふさわしい写真を選んだりする姿が多くみられた。

<2月>

14日、学習発表会の中で家族に向けて今回の防災学習を通して学んだことや感じたことを発表した。防災マップや写真を見せながら、自分たちの住む地域に潜む危険箇所や安心な箇所、洪水だけではなく土砂災害にも意識を向けなければならないという地域の特徴を伝えることができた。

終了後、保護者の方からは…

- ・地区を回って、想像力を働かせながら考えることができた。
- ・いざというときにどうするのか、リアルに考えられた。
- ・台風の時、「物を2階へ。」と子どもが言った。学習が、家族のためにもなった。
- ・いつもの道にも危険がある。それが再認識できた。

と感想が寄せられた。

終わりに

本来であれば、学習発表会の振り返りをもとに、発表内容をさらに練り上げて3学期の終業式で全校に向けて発表する予定であった。しかし、新型コロナウイルスの影響による休校で、残念ながら発表の場を持つことはできなかった。

今回、子どもたちは高さをもとに安全だと思われる場所を見つけることができた。しかし、だから安心なわけではない。有事の際に適切な行動がとれるよう、今回の学習が生かされてほしい。

(文責 長野市立清野小学校)



↑ Google マップで正確な位置を確認



↑ 学習発表会での発表

表1 授業実践表

時間	学習活動	児童の意識や姿 (◎) と教師の支援 (・)
1	新たに改定されたハザードマップを見る。	ねらい <u>ハザードマップの閲覧から、地域に潜む水害の危険を理解する。</u> ・資料『長野市洪水ハザードマップ』（図3） ◎やばい... 真っ赤だ ◎私たちの地域は危険があるんだね。 ◎安全な場所なんてあるのかな。 ◎学校が赤い。
2	洪水についての映像を見る。	ねらい <u>映像から、洪水発生時の状況や身の守り方について学ぶ。</u> ・資料『【防災教育】小学生向け動画「洪水から身を守るには」』 ◎自分だけで逃げられるか心配。 ◎こんなにたくさん雨が降ることなんてあるのかな。 ◎雨がたくさん降っても、僕の家は千曲川から離れているから大丈夫そう。 ◎雨の被害はハザードマップ通りになっているな。 ◎ハザードマップをしっかりと見ておくことが大切かもしれない。
3	学校の3階から地面までの高さを測定する。	ねらい <u>学校の3階から地面までの高さを測ることによって、ハザードマップの浸水予測に対する量感をつける。</u> ◎ハザードマップでは10~20mとなっているけど、10mってどれくらいの高さなのかな。 ◎学校の3階からなら、10mはあるんじゃないの。 ・学校の3階からの高さを測るためのメジャーを用意する。 ◎高さは8mだったから、学校ものみこまれてしまうね。
4	千曲川氾濫時の避難場所について、地区ご	ねらい <u>千曲川の氾濫が発生した場合、家にいたらどこに避難できそうか話し合い、考えられる場所を出し合う。</u>

	<p>とに話し合 う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料『長野市洪水ハザードマップ』（図3） ・発問「千曲川が氾濫したらどこに逃げますか」 <p>◎赤い部分ばかりだから逃げられる場所なんてあるのかな。</p> <p>◎安全な場所なんてなさそう。</p> <p>◎とりあえず川から離れた方がいいと思う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習問題</p> <p>千曲川の氾濫で避難する場合、安全な場所はどこだろう。</p> </div> <p>◎ハザードマップを見ながら考えればいいんじゃない。</p> <p>◎ハザードマップの白いところは安全だと思う。</p> <p>◎少しだけ白い部分があるね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習課題</p> <p>ハザードマップの白い部分に注目すればよさようだ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに安全な場所について話し合うように指示をする。 ・必要があればハザードマップをスクリーンに拡大表示する。 <p>◎私の地区では、離山神社が安全かもしれない。</p> <p>◎僕の地区には逃げられる場所がないかもしれないよ。</p> <p>◎松代パーキングエリアも安全そう。</p>
<p>5</p>	<p>過去の千曲 川水害につ いて学習、 フィールド ワークで行 きたい場所 決め。</p>	<p>ねらい</p> <p><u>過去の水害やハザードマップを踏まえて、氾濫時に安全な避難場 所を考え、フィールドワークで行きたい場所を決める。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料「長野市松代町付近の冠水状況写真（昭和57年9月）」（図4） <p>◎昔も千曲川が氾濫したことがあったんだね。</p> <p>◎温泉団地が浸水してる。</p> <p>◎保育園のところが浸かっている。</p> <p>◎千曲川が茶色い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧河道について触れる。 <p>◎昔の川があったところは土地が低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークでどこに行きたいか、地区ごとに話し合うよう に指示する。 <p>◎離山神社に行ってみたい。</p> <p>◎妻女山も行ってみたいな。</p> <p>◎松代パーキングエリアに行きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問：危険箇所として気をつけたいポイントは何だろう。

6	学校周辺でタブレットを使う練習をする。	<p>◎水が溢れるかも知れないから、水路に気をつけたい。</p> <p>◎水で見えなくなったら転ぶかも知れないから、段差に注目したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークのポイントを模造紙にまとめる。 <p>ねらい</p> <p><u>フィールドワーク時に iPad を操作し、『フィールドオン』を操作可能にする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリの説明をする。 ・iPad を見ながら歩かないように注意する。 <p>◎すぐにアプリの操作方法を覚え、写真とコメントを入力していた。</p>
7 8	水害を想定したフィールドワークを行う。	<p>フィールドワークのねらい</p> <p><u>それぞれの時間に訪れる場所（離山神社、古峯神社、松代パーキングエリア）は千曲川が氾濫した際の避難場所として本当に安全な場所であるのか、また離山神社に向かう途中で危険箇所や安心・安全箇所はあるか確かめる。</u></p>
9	フィールドワークの共有。	<p>〈離山神社〉</p> <p>◎標高が高いから安全だ。</p> <p>◎離山に行くまでに、ガードレールを目印にすればよさそうだ。</p> <p>◎戊の満水の時も離山神社に避難したんだね。</p> <p>〈古峯神社〉</p> <p>◎少し高くなっているから安心。</p> <p>◎近くの公園に防災無線があるけど、倒れそうで危ない。</p> <p>◎防災倉庫を見つけた。</p>
9	フィールドワークの共有。	<p>ねらい</p> <p><u>フィールドワークの記録をクラス全体で共有し、友だちの発見を知る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークで児童が撮影した写真をスクリーンに映す。 <p>◎段差は水害の時に見えなくなるから危ないと思った。</p> <p>◎段差は今まで気がつかなかったな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が新たな見方を出来るようにするために、教師が撮影した写

<p>10 11</p>	<p>水害を想定したフィールドワークを行う。</p>	<p>真も紹介する。</p> <p>〈グループごとにフィールドワークを行う〉</p> <p>〈松代パーキングエリア〉</p> <p>◎高いから安全だ。</p> <p>◎ベンチと広い芝生があるから避難してきても安心。</p> <p>◎ハザードマップで白いところになったから大丈夫だと思う。</p> <p>◎上りと下りで標高が違う。</p>
<p>12 13 14</p>	<p>フィールドワークの記録の修正を行う。</p>	<p>ねらい</p> <p><u>フィールドワークの記録を修正し、わかりやすい防災マップを作りながら今までの活動を振り返る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・e コミマップでフィールドワークの記録を児童に見せる。 ・グループごとにフィールドワークの記録を振り返るように指示をする。 <p>◎似ている写真がたくさんあるよ。</p> <p>◎全部ひらがなでよく分からないコメントがある。</p> <p>◎写真の位置が違うよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題</p> <p>誰が見ても分かる防災マップにしよう。</p> <p>◎コメントが長すぎるからわかりやすくしたい。</p> <p>◎位置情報がずれているから直したい。</p> <p>◎同じような写真があったから、消したい。</p> </div> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題 伝わりやすいコメントに直したり, 写真を整理したりすればよさそうだ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で役割分担をし、話し合いながら行うように指示をする。(分担: 正しい位置情報を調べる人, コメントを直す人, 必要のない写真を削除する人) <p>◎コメントは, 漢字を使った方が見やすいから, 漢字に変えるよ。</p> <p>◎この2枚の写真, 同じ場所で撮った写真だけどどっちがわかりやすいかな。</p> <p>◎位置がわからないから, Google Earth で上から見たい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Google Earth の航空写真の出し方を示す。

防災をテーマに取り組んだ6年生

*文中のカタカナ名は全て仮名



(図1)

はじめに

本校は、高社山のふもとに広がる夜間瀬地区を学区としている。山ノ内町は町内のほぼ全域が志賀高原ユネスコエコパークに登録されており、町内すべての小中学校がユネスコスクールに認定され、ESDを中核とした地域学習に取り組んでいる。

(図1)はESDの概念図である。平成30年度の6年生は、これら様々な視点の中から「防災」をテーマに、総合的な学習の時間を中心として学習に取り組んだ。その際、学級担任が大切にしたのは「子どもを学びの主体にする」ということである。

防災マップ作り

4月に、まずは地域の危険性について知りたいと考え、山ノ内町が作成した「防災マップ」を参考に、自分たちの住んでいる地域の防災マップを作成した(写真1)。拡大した地図をつなぎ合わせ、土砂災害の危険性が高い場所を黄色に塗っていった。休日に、自宅近くの危険と思われる箇所の写真を撮ってきた子どもたち。地区ごとのグループに分かれ、持ち寄った写真を見ながらシールを貼っていく。横倉地区に住むシュウトは「おじいちゃんが言っていた。昔、笹川が氾濫して、人が死んだらしい。みんな集会所に逃げたらしい。」と自分が聞いた話を伝える。同じ地区に住むタクは「その話聞いた。橋に流れて来た木が引っかかって、そこから水があふれたんだって。」と伝えた。横倉地区は傾斜地にあるため石垣が多い。石垣の写真を見ながら、ヒデタカは「この石垣。これが結構奥まで続いているから崩れたら危ない。」と指摘する。避難所が土砂災害危険地帯の中にある事に気づいた



(写真1)

マリコは、「避難所が黄色。だからって運動公園も黄色。学校も黄色。学校に逃げる意味があるのかな。」と避難場所の安全性を疑問視する発言をする。全体で意見交換をする際、アミは「隣のうちのおばあちゃんは、歩くのが不自由だから避難できるかどうか心配。」とお年寄りの避難について心配した。北部地区に住むユミコも「土橋にはお年寄りが多いから心配。」と自分の地域のお年寄りに心を寄せていった。

大阪府北部地震発生

この年の6月18日7時58分ごろ、大阪府北部を震源とするマグニチュード6.1の地震が発生した。最大震度6弱を大阪市北区・高槻市・枚方市・茨木市・箕面市の5市区で観測した。小学校の道路沿いのブロック塀が倒壊、児童が犠牲になるという被害も発生した。このニュースを見た子どもたちは、改めて地震の怖さを実感した。かねてから、横倉地区の石垣が崩れることを心配していたヒデタカは、「地震は、いつ、どこで起きても不思議はない。やっぱり自分たちの地区も地震への備えが必要だ。」と話した。

西日本豪雨発生

この年の7月3日から8日にかけて、台風7号の接近や梅雨前線の停滞により、西日本や東海地方の非常に広範囲で長時間の記録的な大雨となった。長時間の豪雨により、河川の氾濫や浸水害、土砂災害が多発し、死者数が200人を超える平成最悪の豪雨災害となった。このニュースを見たアミは、「あんな雨が降ったら、自分たちの地区も土砂崩れが起る。地区のお年寄りが、やっぱり心配だ。」と話した。

危機管理室に質問してみよう

地域の災害の危険性について気づいた子どもたちは、災害時、お年寄りの安全をどのように確保したらいいのか、また、この点について町としてどのように考えているのか、町の危機管理室に聞いた。担当者からの回答は、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①地震などに備えて、家具を固定することが重要である。 ②災害によっては避難せず、自宅で待避することも必要である。 ③高齢者の避難は、近所で協力し、助け合ってほしい。 |
|--|

というものであった。

アンケート調査をしよう

危機管理室の回答を受けて、子どもたちは、高齢者の方たちが、防災に対してどのような意識を持っているかを知るために、地区の高齢の方たち72名に対してアンケート調査を行った。以下は、そのアンケートの内容である。

.....

() 地区の皆様へ
 防災に関するアンケート
 山ノ内町立西小学校 6年生

私たちの生活を見守り、支えてくださる地域の皆様、いつもありがとうございます。
 日本各地で災害が起こった今年、私たちは地域の防災について学習してきました。そこで、地域の皆様に防災に関してお聞きしたいことがあります。以下のアンケートにご協力をお願いします。

Q1 地震、台風、土砂災害、水害など災害が起こったときに心配なことがあったらお書きください。

Q2 地震などに備えて、転倒防止のため家具などを固定していますか？

- ① している ② していない

Q3 災害の時に備えて、防災グッズや非常食などを用意していますか？

- ① している ② していない

Q4 災害時、避難勧告が出されたら避難所などにすぐに避難しますか？

- ① 避難する ② 避難しない

*「避難しない」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか？

- ① たぶん大丈夫だと思うから ②避難所は不便だから ③避難することが難しい
④ その他 ()

*「避難する」と答えた方は、どこに避難しますか？ ()

Q5 私たちはいざという時助け合うために、地域の結びつきが大切だと考えています。地域の親睦を深めるため交流会などを開く時、どんな内容だったら参加したいと思えますか

- ① 囲碁・将棋 ②カラオケ ③ゲートボール ④麻雀 ⑤お茶飲み
⑥ スポーツ () ⑦お花見など ⑧その他 ()

Q6 趣味や特技などをおかきください

()

Q7 防災に関して、町への要望があったらお書きください。

.....

アンケート調査の結果、

Q2：地震などに備えて、転倒防止のために家具などを固定していますか？

という質問に対して、73%の高齢者の方が「固定していない」と答えていた。また、

Q3：災害時に備えて、防災グッズや非常食などを用意していますか？

という質問に対し、70%の方が「用意していない」と答えていた。子どもたちは、この結果から、地域のお年寄りには、地震や災害に対する危機意識があまり高くないのではないかと考えた。地域の高齢者の方に実際にお会いしてアンケートをお願いすることで、変わっていった子どもたちの姿があった。

タクミは、日記に以下のように書いた。

最初はすごくきん張していたので、家で何回も練習していきました。事情を説明するとおばあちゃんが、「私たちのことを考えてくれてありがとね。」と優しく接してくれました。その後に「柿あげるよ。」と言われたので、いっぱいもらってきました。すごくおいしかったです。アンケートでぼくが気になったのは、防災グッズを用意することと、家具の固定をすることです。集計すると何と70%の人が防災グッズの準備と家具の固定をしていませんでした。ぼくは、いざという時、みんな、家具などが倒れてきてしまって亡くなってしまうかもしれないと思いました。なので、家具の固定と防災グッズについて子ども議会に提案したいと思いました。

同じく、マサトは、日記に以下のように書いた。

お年よりの家に行って、アンケートの事情を説明すると、「頼りになるなぁ。」とか、人によっては、「まあ、とりあえず家上がってけ。」と言ってくれました。ただ、アンケートに答えてくださるだけでなく、「いつも家にいるから遊びに来なよ。」とさそってくださる方もいました。アンケートの結果でぼくが気になったのは、家具を固定している家庭が非常に少ないということです。なので、このことを子ども議会に提案したいです。

子ども議会の提案内容を考えよう

国語の単元、「未来がよりよくあるために提案文を書こう」の学習とリンクさせて、町で毎年開かれている子ども議会で提案する内容を考えた。自分たちが、これまで学んできた防災について整理し、以下の5点について提案することにした。

- ①防災意識を高めるためのパンフレットを作る。
- ②家具の固定器具を配布し、設置もサービスする。
- ③防災グッズを配布する。
- ④地域の絆を深めるため交流会を開く。
- ⑤大災害に備えて、避難所に倉庫を作り、必要な物を準備しておく。

5つのグループに分かれ、具体的な提案内容を検討した。(写真2)は、提案内容について他のグループから意見を聞いている場面である。防災グッズを配ることを提案した③グループ



グループに対し「町の人みんなに配るのですか。そんなに予算は無いと思います。」と言うミナ。それに対し「70才以上の高齢者のみの家庭に配ります。」と答えるヒロタカ。モモカは、「すべての防災グッズを配ることは難しいと思うので、何点か配って、あとは注文書に記入してもらおうのはどうですか。」と意見を述べる。結果、モモカの意見が採用され、このグループは、その後、注文する品物のリ

(写真2)

ストを作成した。

地域のコミュニティづくりのため交流会を開くことを提案した④グループのアンケート調査、

Q5：私たちはいざという時助け合うために、地域の結びつきが大切だと考えています。地域の親睦を深めるため交流会などを開く時、どんな内容だったら参加したいと思いませんか？

という質問に対し、「カラオケ」「お茶飲み」「お花見」「手芸」などの回答が多かった。特に「お茶飲み」と答えた方が71%と最も多かったことから、お茶飲みなどで気軽に集まれる場を求めている方が多いと考え、気軽に集まっているいろんなおしゃべりをしたり、そこで手芸や編み物、カラオケなどの趣味を楽しんだりできる機会をつくって、交流を深めることの大切さを提案に盛り込み、以下のようにまとめた。

今年、私たちは災害について勉強してきました。その中で課題となったのが、災害の時お年よりの安全をどのように守ったらよいか、ということです。災害の時お年よりがたくさん逃げ遅れて亡くなってしまうそうです。でも、白馬村の地震の時、亡くなった人は一人もいませんでした。なぜかという、地域の人たちが助け合ったからです。お年よりの家に行って「おばあちゃん、早く逃げよう」と声をかけたりしたから、みんな助かったそうです。その話を聞いて地域の交流が大切だと思いました。アンケートでは「お茶飲みをやりたい」と答えた人が多かったので、公民館などに集まってお茶飲みをする機会をつくってほしいと思います。また、お年よりと子どもたちが仲良くなれる交流会もいいと思います。お年寄りと子どもが仲良くなれば、お母さんたちも「いつもありがとうございます」と言ってお年寄りと仲良くなれるから、地域のつながりができると思います。いざというときみんなが助け合える地域をつくるために交流会を開いてほしいです。

子ども議会当日

(写真3)は、子ども議会の様子である。代表の3名が順番に5点について質問した。質問に対する山ノ内町町長の答弁を、どの子も一言も聞き逃すまいと、ノートを片手に聞いていた。これは、近所の高齢者の方たちの防災ために、どんな答弁がなされるのかが、子どもたちにとってとても重要な事



(写真3)

だったからである。しかし、答弁を聞いただけでは、提案に対する町の考えが分かりにくいものもあった。

そこで、子ども議会終了後、庁内見学の際に、担当部局である、危機管理室で再度、担当者に質問するホノカの姿が見られた。

以下は、子どもたちが実際に提案した文の一部である。

③災害に備えて、防災グッズと家具の固定器具を配ることを提案する

お年よりからのアンケートを見ると、防災グッズを用意していない人が70%、家具を固定していない人は73%もいた。この結果から、地しんなどの災害に対する意識があまり高くないと思われる。東日本大震災や阪神淡路大震災の時は、家具が倒れて亡くなってしまった人は46%もいた。

そこで、町から防災グッズを配ったり、家具の固定サービスをしたりしてはどうだろう。山ノ内町内の全家庭に配るのはお金がたくさんかかってしまうので、70歳以上の高齢者の家に限定する。ぜひ、この提案を検討してもらいたい。

④災害に備えて地域の交流会を開くことを提案する

今年、私たちは災害について勉強してきました。その中で課題となったのが、災害の時お年よりの安全をどのように守ったらよいか、ということです。災害の時お年よりがたくさん逃げ遅れて亡くなってしまうそうです。でも、白馬村の地震の時、亡くなった人は一人もいませんでした。なぜかというと、地域の人たちが助け合ったからです。お年よりの家に行って「おばあちゃん、早く逃げよう」と声をかけたりしたから、みんな助かったそうです。その話を聞いて地域の交流が大切だと思いました。アンケートでは「お茶飲みをやりたい」と答えた人が多かったので、公民館などに集まってお茶飲みをする機会をつくってほしいと思います。また、お年よりと子どもたちが仲良くなれる交流会もいいと思います。お年寄り子どもが仲良くなれば、お母さんたちも「いつもありがとうございます」と言ってお年寄り仲良くなれるから、地域のつながりができると思います。いざというときみんな助け合える地域をつくるために交流会を開いてほしいです。

防災パンフレットを作って配ろう

子どもたちの提案文の中に、「防災意識を高める防災パンフレットを作ってほしい」というものがあつた。町にもお願いをするが、自分たちでも防災パンフレットを作って、参考にしてもらおう、ということになった。できあがつたパンフレットは、アンケートに答えていただいた地域の高齢者の皆さんだけでなく、子ども議会の際に町長さんや課長さん、議員の皆さんにもお配りした。

答弁内容は、パンフレットについては褒めていただいたが、提案については「取り組むことは難しい」という答えだった。しかし、自分たちが取り組んできた活動を町の議会で発表し、提案できたことは子どもたちにとって貴重な体験となった。

答弁の後、一人の議員の方が、「子どもたちがこれだけ防災のことを考えてくれているのだから、俺たち議員がこれから引き継いで防災のことを進めていくよ。」と仰ってくださったことは、子どもたちにとって、大きな励みになった。

以下は、子どもたちが作った防災パンフレットのの一部である。

山ノ内 防災パンフレット

いざという時に備えよう

山ノ内町立西小学校 6年生

地しんだ!! その時にすること

② すぐドアを開けよう!! ① 机の下へ行って頭を守ろう!

① 地しんがきたら、まず机の下等に入て頭部を守りましょ。
② 出口を確保するためにドアを開けましょ。

(8)

家具の固定

フィルムをはらうを防止
おどろかすに固定しなよ
ねる場所のそばにくっつけておくれ
明かりを用意しておくと夜に外へ出なよ
ゴムなどで本をきめておくと本がこぼれおくれよ!!

(4)

地震がおさまったら、ブレーカーOFF!

原因	割合
電気関係	61%
その他	22%
ガス	17%
不明	2%

① けいしんがきたら、ブレーカーをOFFにしよう!!
② お風呂やバケツに水をためよう!!

(7)

第3章

専門家に教えていただく

①戸隠化石地質博物館の見学

子ども議会の後、理科の学習で戸隠化石地質博物館の見学に出かけた。実際に地層や化石を見たり手で触ったりすることができ、地層のできかたなどを学習することができた。



(写真4)

午後は博物館の中で長野県の大地的な様子についてもお話を伺うことができた。山ノ内の地域も立体模型で見ることができ、それを見ながら、「土砂崩れや水害が起きたら、土砂や水がこっちの方向に流れていくね。」「この辺危険かも。」などと話し合う姿が見られた(写真4)。また、学芸員さんに「山ノ内町の地盤は安定していますか？危険ですか？」と質問する児童もいた。

②北信建設事務所の方から土砂災害に関するお話を聞く

戸隠化石地質博物館の見学に続き、北信建設事務所の方3名が子どもたちに、土砂災害に関する学習会を開いてくださった。子どもたちが今まで知りたいと思っていた山ノ内町の



(写真5)

の地質や土砂災害の起こりやすさはどうなのかということについてもしっかり教えていただくことができた(写真5)。前年(平成29年)に飯山市で起こった土石流の動画を見たときは、土石流の勢いのすごさに、どの子も息をのんでいた。専門家の方達を前に「こんなチャンスはまたとない!」と、子どもたちは山ノ内町の地質や土砂崩れの危険性などについて次々に質問をしていた。

成果と課題

①協働的な追究が学びを深めていく

地域の防災を考えるこの学習は、友だちとの話し合い無くしては成り立たない学習だった。地区の危険箇所について共通理解し、改善方法を話し合う場面、子ども議会に提案する内容を話し合う場面、地域の高齢者を災害から守るためにはどうしたらよいか話し合う場面、提案文を検討し合う場面など、それぞれの場面で友と真剣に考え、語り合う姿があった。話し合う中で自分一人では考えつかなかった新たな方法や、新たな視点

に気づいていった。

②教科とつなげ、生きた学習に

今回の子ども議会への提案文作りは、国語「よりよい未来をつくるために～提案文を書こう」の学習とつなげて行った。また、子ども議会への参加は、社会「地方自治体の政治」の学習とつなげて行った。地震、土砂災害は理科「大地のつくりとはたらき」と関連づけて学習を進めた。地域防災と学習を関連づけることにより必然性が生まれ、子どもたちは主体的に、生きた学習を行うことができた。

③実際に人と関わることで初めて自分事となる

提案文を書く、検討する、それを議会で提案し答弁を聞く。これら一連の活動に対し、子どもたちは自分事として真剣に考え、取り組むことができた。最初は他人事だった防災学習が、子どもたちにとって自分事となったのは、地域の高齢者の方たちに実際にお会いしてお話をし、交流してからだった。「高齢者の方を守る防災」から、「お隣の〇〇さんを守るためには」へと変化していった。人の顔が見えて初めて、「助けたい、守りたい」という感情が湧いてくるのだ、ということがわかった。

④専門家の方たちの協力

今回の防災学習は、担任にもわからない専門的な事柄が多いため、専門家の方たちの協力が不可欠だった。町の危機管理室の方々、戸隠化石地質博物館の方、北信建設事務所の方々など、学習を進めていく中で専門的なご意見をいただくなど、協力していただき大変ありがたかった。防災の学習を進めていることを発信していくと、様々なところとつながり、手をさしのべていただけることがわかった。

「災害に備える」 (防災教育) 総合的な学習の時間 学習指導案

1. 題材名 (単元名) 「災害に備える」 5年〇組

2. 使用教材

青少年赤十字防災教育プログラム 「まもるいのち ひろめるぼうさい」 冊子及びDVD

・使用するDVDチャプター

A-0 命を守る防災 (イントロダクション)、A-1 様々な自然災害

A-14 命を守るための備え (建物編)、A-15 命を守るための備え (備蓄編)

A-16 命を守るための備え (情報編)、A-18 命を守るための知識

3. プログラムの趣旨

災害には日頃の備えが重要である。日頃の備えを多面的に学ぶことで、災害から自分のいのちは自分で守ることを意識させる。

4. プログラムのねらい

①災害に対する日頃の備えについて学ぶ。

②正しい情報を入手することが生き抜くためには役立つことを学ぶ。

③いのちを守るための知識を常に新しいものにしていくために、地域の避難訓練などに積極的に参加する意識をもたせる。

5. 本時案

(1) 本時の位置 (全1時間扱い中の第1時)

(2) 主眼

災害に対して日頃の備えが大切であることを学習する場面で、DVDを視聴したり、災害に備えるために準備しておいた方がよいものを考えたりすることを通して、自分の命は自分で守ろうとする意識を持つことができる。

(3) 指導上の留意点

・動画を視聴する際、不安を感じたり、嫌な気分になったりするときには、動画を見なくても良いことを事前に伝えておく。

・記入したワークシートを自宅に持ち帰らせ、家族で話し合いをさせることで防災の意識を更に高めさせる。

展開

段階	学習内容	○発問・予想される児童の反応	時間	・教師の支援※指導上の留意点
導入	①「災害」のことばの意味を考える。	○「災害」とは何ですか？ ・去年の11月の台風も災害だ。 ・東日本大震災の時の津波はとても大きな災害だったらしい。	10 (DVD 8分)	・災害とは何か、またはどんなことか、考えを発表させ、DVDのA-0、A-1を見せる。 ※動画をみて不安を感じる場合には顔を伏せて動画を見なくても良いと伝える。
	②DVDを視聴する	・住んでいるでいる人が困ってしまうような、自然災害のことだね。		


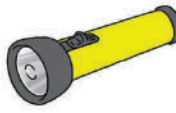


展開	<p>③災害への備えについて学び、災害に対しては、日頃の備えが大切であることを学習する。</p>	<p>○災害に備えて、日頃から何か備えをしていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風の時以来、非常持ち出し袋を用意している。 ・電気がなくてもすぐに食べられる食べ物を用意しているよ。 ・台風の時、携帯電話の充電で困ったので、自分で充電ができる手回し充電器を用意してあるよ。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えて、日頃からどんな備えをしているかたずね、何人かに発表してもらおう。
<p>学習課題：DVDを見て、命を守るためにどんな備えが必要か考えよう。</p>				
展開	<p>④DVDを視聴し、日頃の備えについて学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家具が倒れてくるのはとても危ないからやっておいた方がいいな。 ・ハザードマップは一度見たことがあるよ。 	DVD 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDのA-14、A-15、A-16、A-18を見せる。
<p><DVDの内容></p> <p>【家の中の危険に備える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家具や家電にストッパーをつけたり、倒れても影響が少ない場所に移動する。 ・部屋の中に靴やスリッパを用意する。 ・日頃から家の中の何が危ないか、どこが安全かを家族で話し合う。 <p>【家庭での備蓄をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こって救助が来るまで目安は3日間。3日間生きられる備えが必要。 ・自分用の避難バッグを用意し、無理なく持てる重さにおさえ、すぐに持ち出せるところに置いておく。 ・避難が最優先される津波や洪水においては、モノを置いて避難し、いのちを守ることが重要。 <p>【家族で事前に話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに集合するかを決めておく。 ・ハザードマップなどを見ながら、一時的に避難する「避難場所」と長期的に避難する『避難所』を確認しておく。 				
まとめ	<p>⑤ワークシート7「災害に備える」を記入し、災害への備えの重要性を理解する。</p>	<p>○自分の家では、災害に備えてどんな準備をしているか思い出しながら、ワークシートに記入しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんとお母さんが準備をしていたなあ。 ・確か、笛やブザーが入っていたような気がする。 ・靴やスリッパが必要なことは知っていたよ。 ・歯磨きセットも大切な物なんだね。 ・リスト乗っていないから、②の欄に書いておこう。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえってみよう！」の画面が出たら、ワークシート7を配付する。 ・③以降は自宅に持ち帰って、家族と話し合ってから記入し、後日提出するように説明する。 ・ワークシートに記入するのではなく、実際に防災への備えを考えて備蓄などを行うように薦める。
	<p>⑥ 今日の授業を受けて、感じたこと考えたことを記入する。</p>	<p>○感じたこと、考えたことを記入しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害は怖い物だから、しっかり備えておくようにしたい。 ・家に帰ったら、家族と相談して非常持ち出し袋を準備しようと思う。 ・自分や家族の命をまもるために、しっかりと備えをしておこう。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・記入後、数名に感想を発表してもらおう。 ※防災への意識を高め普段から災害を想定した備えを行うことを確認する。 ※自分の身を守るだけでなく、学んだことを家族や他の人にも伝えていくことが大切であることを確認する。

年 組 番 名前

ふりかえってみよう! ^{そな}災害に備えて、^{じゅんぴ}どんな準備をしていますか?

チェックリストにあるものをバッグにつめて、一人ひとつ^{ひなん}避難バッグを作ってみましょう。

①家族と話し合いながら、下のチェックリストを活用して災害に^{そな}備えましょう。

<p>現金類</p> <input type="checkbox"/> 現金 (小銭をふくむ) ※公衆電話用に10円玉、100円玉も	<p>食料など</p> <input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 飲料水 	<p>日用品類</p> <input type="checkbox"/> マッチかライター <input type="checkbox"/> 給水袋 <input type="checkbox"/> 雨具 (レインコート、長靴など) <input type="checkbox"/> 簡易トイレ
<p>貴重品</p> <input type="checkbox"/> 印鑑 <p>※以下の2つは、現物を持ち出せなかった場合に備えて、コピーを入れておく。</p> <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 身分を証明できるもの (学生証、パスポートなど) <input type="checkbox"/> 予備の眼鏡	<p>照明器具</p> <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 懐中電灯 (予備電池をふくむ) <input type="checkbox"/> 笛やブザー (音を出して居場所を知らせるもの) <input type="checkbox"/> 万能ナイフ <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ 	<p>衛生・緊急用品</p> <input type="checkbox"/> 救急セット <input type="checkbox"/> 常備薬・持病薬 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> トイレトペーパー <input type="checkbox"/> 着替え (下着をふくむ) <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 歯みがきセット 
<p>その他</p> <input type="checkbox"/> 携帯電話 (充電器をふくむ) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ (予備電池をふくむ) <input type="checkbox"/> 家族の写真 (はぐれた時の確認用) <input type="checkbox"/> 家族との災害時の取り決めメモ <input type="checkbox"/> 筆記用具	<p>その他</p> <input type="checkbox"/> アルミ製保護シート <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> スリッパ <input type="checkbox"/> 軍手 	

②上のリストのほかに、自分が必要だと思うものを書きましょう。

③今日の授業を受けて、災害への備えについて、感じたこと・考えたことを書きましょう。

④家族と相談して、集合場所や約束ごとを決めて、書きましょう。

<災害が起こったときの集合場所> (例) 避難所である豊野西小学校に集合する。

<約束ごと> (例) 災害後、〇日間は避難所を動かない。

ワークシート回答例

ワークシート7「災害に備える」

①家族と話し合いながら、下のチェックリストを活用して災害に備えましょう。

<input type="checkbox"/> 現金 (小銭をふくむ) ※公衆電話用に10円玉、100円玉も <input type="checkbox"/> 印鑑 <small>※以下の2つは、現物を持ち出せなかった場合に備えて、コピーを入れておく。</small> <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 身分を証明できるもの (学生証、パスポートなど) <input type="checkbox"/> 予備の眼鏡 <input type="checkbox"/> 携帯電話 (充電器をふくむ) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ (予備電池をふくむ) <input type="checkbox"/> 家族の写真 (はぐれた時の確認用) <input type="checkbox"/> 家族との災害時の取り決めメモ <input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 懐中電灯 (予備電池をふくむ) <input type="checkbox"/> 笛やブザー (音を出して居場所を知らせるもの) <input type="checkbox"/> 万能ナイフ <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> アルミ製保護シート <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> スリッパ <input type="checkbox"/> 軍手	<input type="checkbox"/> マッチかライター <input type="checkbox"/> 給水袋 <input type="checkbox"/> 雨具 (レインコート、長靴など) <input type="checkbox"/> 簡易トイレ <input type="checkbox"/> 救急セット <input type="checkbox"/> 常備薬・持病薬 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> トイレ用ペーパー <input type="checkbox"/> 避難用 (下着をふくむ) <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 歯みがきセット
--	---	---

②上のリストのほかに、自分や家族が必要だと思うものを書きましょう。

例: 普段つかっている薬、ぜんそくの吸入器、(冬の場合) 防寒具など

③家族と相談して、集合場所や約束ごとなど、決めておくべきことを、書きましょう。

例: 避難所である〇〇小学校に集合する
 災害後、3日間はできるだけ避難所から動かない

指導のポイント

このワークシートは家に持ち帰って記入してもらう必要があります。後日回収し、目を通した後に返却して家で保管するように指導してください。また、後日の提出を求めず、家庭での話し合いを薦めるなどの方法も考えられます。



※イメージです。

防災教育、家庭での取り組みのお願い

秋が深まりつつありますが、小春日和で暖かな日が続いております。保護者の皆様におかれましては、日頃より、5年O組の学級経営にご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、先日5年O組では、総合学習の時間に「災害に備える」テーマで、災害とはどういうものか、災害で命を守るには、どのような備えをしておけば良いか等について、DVDを見ながら学習しました。いざという時に備えて、家具にストッパーをつけておくこと、部屋に靴かスリッパを常備しておくこと、家族と話し合いをしておく事等を学び、子ども達は災害に対する備えの大切さを痛感していました。そこで、授業で習ったことを家で家族に話をし、自分と家族の命を守るために、各自の家で防災バック（避難バック）を作ってみようとお話をしました。

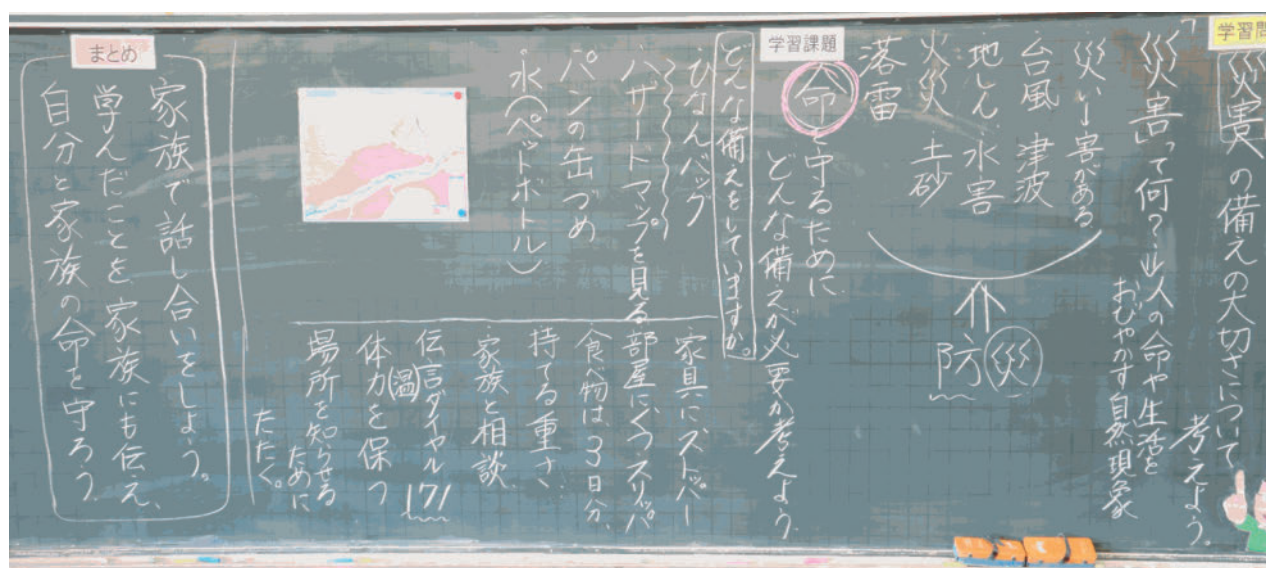
つきましては、この週末を利用して、お子さんと授業の内容についてお子さんと話していただくとともに、災害への備え（下記2点）について、話し合いをしていただきたいと思います。また、可能であれば防災バック準備の実践をしていただけると幸いです。詳しくは、児童が学習プリントを持ち帰っていますので、そちらをご参照下さい。

大変お忙しい折とは存じますが、大きな災害で自分や家族の命を守る取り組みとしてご理解をいただき、何卒よろしく願いいたします。

<取り組んでいただきたいこと>

- ①避難バックにどんなものを入れるか話し合う。可能であれば、実際に避難バックを作ってみる。
- ②ハザードマップを見ながら、災害時の集合場所、約束事を決める。

<参考> 11月18日に行った授業の板書です。



中学部防災教育 実施計画

1. ねらい

- ・明日、災害が起きた時に迅速かつ的確に対応できる。
- ・自然災害の正しい知識をもち、自ら考え、判断し、危険から身を守る行動がとれる。

2. 日時、場所（避難訓練を含む）

	内 容	場 所	備考（担当）
1 2月上旬	防災教育①（部集会 全員参加）	音楽室	○ ●●
1 2月上旬 AM	全校避難訓練③		
1 2月上旬 PM	防災教育② ・学校で地震が起きた時、危ないものは？ ・緊急地震速報が鳴ったらどうする？	学習室	◎ ●●
1 2月上旬～中旬	予告なしショート訓練		
1 2月中旬 PM	防災教育③ ・災害に備える	学習室	○ ●●

※地震体験車は故障により使用できなくなりました。

※防災教育②③については生徒の実態に応じて参加する。初めての試みで、活動のイメージができなかったため参加生徒 の名前を入れてありますが、 各クラス検討して変更してください。

※防災教育②③については、青少年赤十字防災教育プログラム『まもるいのち ひろめるぼうさい』を軸に、②は小学校低学年向け、③は小学校高学年向けの授業を行います。

3. 参加生徒・内容

★防災教育①（部集会 ：全員参加）

	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導 入	①「災害」 とは何か考える？	・どんな災害があるか生徒に問いかけ、発言を促す。 ・発言を受けて、写真を提示し、災害（地震、津波、火災、台風、雷）の様子を知る。 ・映像（DVD）を見て、災害についての理解をより深める。
展 開	②ぼうさいダック ゲーム カードに合わせてポーズをと ろう！	・防災ダックゲームのカード表面を示し、実演しながらポーズの説明をし、生徒たちも模倣するように促す。 ・カードは地震、火災、台風、洪水、雷に限定する。 ・ポーズを一通り説明し終えたら、ランダムにカードを提示し、カードの災害にあったポーズをとる。
ま と め	③避難訓練について	・明日の避難訓練に関わり、地震の際は頭を守ることを 確認する。

★ 防災教育②

	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (7分)	① 地震について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業や、先日の避難訓練に触れながら、地震について問いかけ、DVDのA-3（または別の映像）を見る。 ・「地震は突然やってくること」、地震の時に気を付けなければいけないのは「倒れてくるもの」「落ちてくるもの」「動いてくるもの」であることを抑える。
展開 (15分)	②教室で地震が起きた時の危険を知る。 ③どんな危険があるか発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きた時に危ない箇所をワークシートに○をする。 ・地震の時に気を付けなければいけないのは「倒れてくるもの」「落ちてくるもの」「動いてくるもの」であることを再度抑える。悩んでいる生徒には、いずれかにしぼって注目するように声掛けする。 ・1-1と2年、1-2と3年の2グループに分け、グループ内で発表し合う。 ・危険からどう逃れるか考えられるようにする。
まとめ (8分)	④緊急地震速報が鳴ることを学び、どう行動すればよいかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に緊急地震速報の音を聞き、どんな時にどこから（テレビ、ラジオ、携帯、屋外スピーカー）流れるのか伝える。 ・イラストを提示してクイズ形式にして行う。（2問） ・地震の時に走って外に飛び出したり、家具を押さえたりすることも危険であることを確認する。

○参加者

	防災教育に参加		教室で課題別学習等	
	生徒	職員	生徒	職員
1年1組	■■■■■ (5名)	●●・●●	■■ (1名)	●●
1年2組	■■■■■ (3名)	●●	■■■■ (2名)	●●●・●●●
2年	■■■■■■ ■■■ (6名)	○ ●●●・●●●	■■■■■■■ (4名)	●●●・●●● ●●
3年	■■■■■■■ ■■■■■ (7名)		■■■■■■■ (3名)	●●●・●●●
しらかば			■■■■■ (2名)	●●

○座席

ホワイトボード		
1-2		1-1
3年		1-1
3年		2年
(3年)		2年

※会議室から机とイスを搬入し、1机に3名座ります。クラス内で座る場所を調整しておいてください。

★防災教育③

	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	①前時の振り返りをする。 ②地震が起こる前にできること(備え)を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 地震が起きた時、「倒れてくるもの」「落ちてくるもの」「動いてくるもの」に気を付けることを振り返る。 地震が起きた時、緊急地震速報が鳴った時の行動を再確認する。 何ができるか問いかけながら、「危険を減らしておく」、「備蓄をする」、「家族で事前に話し合う」の3点について押さえる。
展開 (20分)	③災害への備えについて学ぶ。 ④避難の時、自分なら何を持って行くか考える。 ⑤選んだものについて発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> DVDのA-15(約3分)を見て、「備蓄をする」に焦点を当てる。 避難バッグの実物を見る。 避難所がどんな場所か写真を提示する。 ワークシートを配布し、避難時に持って行くものを選び、糊付けする。 記入できる生徒は、どうして持って行くものを選んだか理由も記入する。 各学年1人程度理由もあわせて発表する。
まとめ (5分)	⑥備蓄の大切さを再確認し、家で実践することを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 必要なものは人それぞれであること、自分の命を守るためにはあらかじめ必要なものを用意しておくこと良いことを確認する。 避難バッグの実物を見て、家庭での防災意識が高まるようにする。

○参加者

	防災教育に参加		教室で課題別学習等	
	生徒	職員	生徒	職員
1年1組	■■■■■ (5名)	●●●●	■ (1名)	●●
1年2組	■■■■ (3名)	●●	■■■■ (2名)	●●●●
2年	■■■■■ ■ (6名)	○ ●●	■■■■■■ (4名)	●●●●●●●● ●●
3年	■■■■■ ■■■■ (7名)	●●	■■■■■ (3名)	●●●●●●●● ●●
しらかば			■■■■ (2名)	●●

※座席は前回に準じます。

※はさみとのりを人数分持ってきてください。

※各クラス1脚、会議室から長机を持ってきてください。イスは2年で用意します。

防災教育 学習指導案

1 題材名 「My 防災ポーチを作ろう」

2 ねらい 木曾地域で起こりうる自然災害（地震、水害、火山噴火等）の実際の映像を見ることで緊急時の対応の大切さを知り、普段から常に携帯しているべき必要最低限の防災グッズを考え、各自で何を準備したらよいか確認することができる。

3 題材設定の理由

本校では、防災教育としてこれまで定期的な避難訓練（火災・地震）だけでなく、地震体験車や煙体験など、様々な想定でのショート訓練や抜き打ち訓練などを行ってきた。生徒たちは10月に起きた台風19号による長野県内の甚大な被害の様子をテレビ等で目の当たりにし、災害に対する危機意識が向上してきているように思われる。木曾地域においても、昨年6月に大雨による避難勧告が出され、本校でも臨時休校になっており、いざというときに備え、日ごろから緊急時の対応を学習しておく必要がある。いかなる災害が起きたときにも、自分の身を守ることができてほしいと考え本題材を設定した。

4 展開の概要（全3時間）

時	内 容	活 動
防災教育1 12月	災害について知ろう（地震、水害、火山噴火）	動画を見て、災害についてのイメージを膨らませる。
防災教育2 12月 本時	My 防災ポーチの中身を考えよう	My 防災ポーチの中身を考え、それぞれ発表する。
防災教育3 3学期	My 防災ポーチを作ろう	前時に考えた My 防災ポーチを実際に作り（中身を詰め）、実際に試してみる。

5 防災教育2の指導案

（1）参加者 高等部1学年9名 指導者3名

（2）ねらい 緊急時に応じた防災ポーチの必要性を知り、防災ポーチに入れる自分に必要なものを考えることができる。

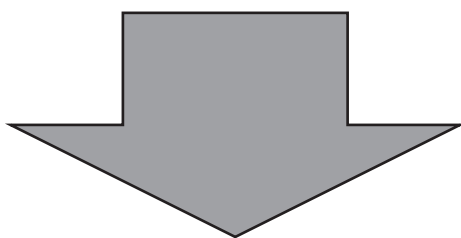
（3）展開

段階	学習内容・学習活動	支援（○）、留意点（●）、評価（☆）
導入 5分	<p>1 前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に困ることを振り返る。 →前時は、地震の映像、避難所の方々の様子、困り感のインタビュー映像を観ている。 ・防災ポーチを作る意味を確認する。 	<p>学習課題：My 防災ポーチの中身を考えよう</p>

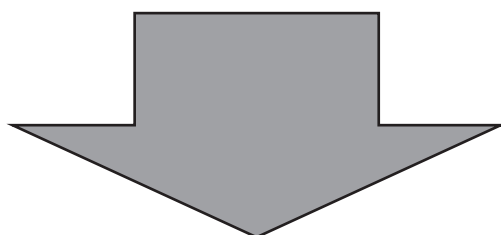
<p>展開 30分</p>	<p>2 防災ポーチの中身を考える</p> <p>発問1：「すぐに家に帰れなくなったらどうする？」</p> <p>発問2：「出かけたときに災害にあって、避難所に行くことになったらどうする？」 (予想される生徒の反応)</p> <p>「携帯の電池が持たない」「風呂がない」「寒い」「食べ物に困る」「トイレに困る」 「ポケモンができない(携帯ゲームができない)」など・・・</p> <p>○意見が出ないときには「家に帰れないとどうなる？」と問いかける(補助発問)。 ○予想される発言をイラストで用意しておき、イラストを黒板に貼ってマジックでバツ印をつけていく。</p> <p>3 My防災ポーチに入れるものを5つ考える。</p> <p>・これまでの学習を基に、自分の防災ポーチに入れるものを考える。</p> <p>○ポーチを生徒に配布する。(学級費で購入)</p> <p>○自分だけのポーチという意識が持てるように、キーホルダーやチャーム、イラストなど、目印をつけられるように、事前授業の際に話をしておく(学級通信にも記載する)。</p> <p>発問3：「My防災ポーチに入れる5つのアイテムを考えよう」</p> <p>・家庭で考えてきたMy防災ポーチに入れたいものの中から5つ選択する。</p> <p>○学習プリントを配布し、自分にとって必要な順に防災ポーチに入れる5つものものを選ぶようにする。</p> <p>●作成した学習プリントは、まとめの際に確認し合えるようにA3サイズにする。</p> <p>○必要な生徒には、品物のイラストを配布し、選んでプリントに貼れるようにする。 ⇒家庭で考えてきたものを事前に集め、該当生徒用にイラストを準備する。</p> <p>(予想される生徒の回答)</p> <p>・携帯の充電器 ・マスク ・飴 ・携帯トイレ ・乾電池 ・ティッシュ ・カイロ ・歯ブラシ など</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>4 それぞれの防災ポーチの中身を知り、防災アドバイザーからアドバイスをいただく。</p> <p>・それぞれがMy防災ポーチに何を入れたか確認し合う。</p> <p>・友だちの防災ポーチでいいと思ったものにシールを貼る。</p> <p>○机に学習プリントを置き、みんなで各々が何を選んだかを見合えるようにする。</p> <p>○タイマーを3分にセットする。</p> <p>☆緊急時に応じた防災ポーチの必要性を理解し、各々がMy防災ポーチに必要なものを選ぶことができたか</p> <p>●見合う場面ではウォーカーを使用している生徒がいるので、転倒しないように安全に配慮する。</p> <p>・防災アドバイザーのアドバイスをいただく。</p> <p style="text-align: right;">【終了】</p>



きょうしつ



かぜの
ひろば



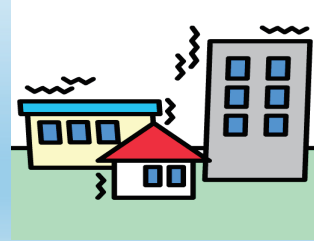
こうてい

ぼうさいきょういくじゅぎょう
ひなんくんれん②



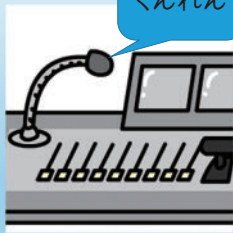
うえだようごがっこう
ぼうさいあんぜんがかり

がたがたがたがた
じしん



ほうそう

くんれん
くんれん



つくえのしたにもぐる



かのうであれば、
つくえの(たいかくせんの)
あしをもつ

あんぜんすぺーすに行く

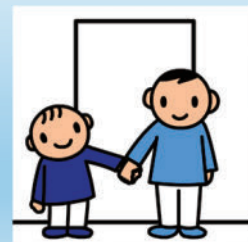
あんぜんすぺーす

どあ

1ねん0くみきょうしつ



どあ あける



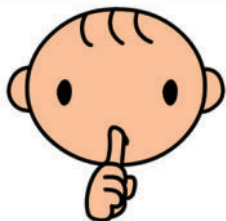
4つのやくそく



①あ る く



②しずかにする



③てをつなぐ



④こうていに行く



先生方へ

共有フォルダにこのパワーポイントが入っています。事前学習で使う際には、クラスの実態に応じて画像等を変えて使って下さい。

特別支援学校の学校安全担当者が集まった折、『おはしも』が子どもたちには難しいという話題になった。『おはしも』＝おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない, という標語は全国的に普及しており, この教育を受けてきた世代に広く定着している。シンプルな標語が普及することで, 繰り返し学習により定着がはかられる, 災害時の避難行動について共通認識を持てる等の利点がある。

一方, 知的障がいや発達障がいの子どもたちとのコミュニケーションにおいては, 否定的な表現を避け, 具体的行動を端的に提示することが基本とされる。こうしたかかわり方は, 特別支援学校だけでなく, 幼稚園や小学校でも取り入れられてきている。その基本に立てば, すべて否定形で示される『おはしも』は, なるほど難しい表現といえる。

そこで私たちは考えた。『おはしも』は, 子どもたちに適切な避難行動をわかりやすく示し, 記憶に残りやすくし, 発災時にすぐに行動できるようにするためにある。目的は『おはしも』を理解して覚えることではなく, 子どもたちが適切に避難できることにある。また, 避難に支援が必要な子どもたちには, 「しゃべらない」よりも助けを呼べるようになってもらいたい。そうであれば, 特別支援学校の子どもたちが適切に避難するためには, より良い方法があるかもしれない。そんな共通理解を得て, 思考の枷が外れた先生方の創造力は素晴らしかった。

本手引きの実践例では, 上田養護学校で作成されたイラスト付きの新たな4つのやくそく「①あるく, ②しずかにする, ③てをつなぐ, ④こうていに行く」が紹介されている。また, 「♪歩こう, 歩こう」で始まる子どもたちに身近な曲『さんぽ』をアレンジして, 災害時の避難行動を説明する替え歌を作り, 歌いながら行動を確認する授業も考案された。飯山養護学校では, 「**あるくま, たすけて!**」＝(慌てず) あるく, (着いたら) まつ, たすけて (と言う), という長野県の子どもたちにぴったりの標語が考案された。木曾養護学校では視覚支援を充実させた。

『おはしも』のほかにも「避難場所へ集合したあと“大声で”本部に報告しなければならないが, それによって子どもたちが怖がってしまう」とか, 「子どもが災害の映像を怖がって訓練の日は学校に行きたくないと言い出した」といった特別支援学校ならではの悩みは多い。防災の常識と現実の間で壁にぶつかったとき, 防災訓練や防災教育のひな型は何を目的として作られてきたのかを考え, 実情に合うベターな方法が見つかったら試してみればよい。災害時に何が起きるのか想像力を働かせれば, 子どもたちを守るための正解は1つではないはずだ。そして, より実践的な教育や訓練に近づくほど, より課題が多いほど, 私たちはジレンマや疑問にぶつかり, 新しいアイディアを生み出すことができるのではないだろうか。

防災を進めるには, 一緒に悩み, 考えなければならない。こんなに楽しいことはない。次のステップは, この楽しさを子どもたちとも共有することだろう。(白神晃子)

